

令和 6 年度地区懇談会（青葉地区） 議事録（概要）

令和 6 年 1 1 月 2 2 日（金） 1 8 : 0 0 ~ 1 9 : 3 0

市民活動センター 出席者 2 0 名

5. 地区連合町内会が市と意見交換したい事項：

（１）災害避難場所における登別市の備蓄の現状と今後の考え方について

概要説明：緑町団地町内会

- ・ 現在、全国に備蓄がどのくらいあるのか国が調べていると聞いている。たとえば、登別市で災害が発生した場合、津波の被害を受けなかった市町村から備蓄品を分けてもらうような協定を事前に結ぶことはできないか。西胆振だけではなく、違う地域とも協定を結ぶ必要があるかと思われる。
- ・ 避難所で 1 番問題となるのは、トイレと水であると聞く。どちらも 2 時間に 1 度必要になるかと思うが、トイレ不足により感染症が発生し、亡くなる人もいたと聞いている。食べ物や毛布の備蓄は聞くが、トイレや水の備蓄はどのように考えているのか知りたい。

回答：総務部

- ・ 災害に備えた備蓄品については、登別市備蓄整備方針というものを作成しており、計画的・年次的に市内 16 箇所の倉庫に備蓄している。青葉小学校に備蓄している主な備蓄品は、アルファ化米 600 食、缶詰パン 600 食、発電機 1 台としている。登別市全体としては、食料等 22,000 食、発電機 56 台、ストーブ 40 台の他、携帯トイレ、ベッド、毛布、生理用品、衛生用品などを備蓄している。備蓄品については、簡易トイレや冬の寒さに対する備え等がまだまだ不足していると考えているため、今後検討を進めて参りたい。
- ・ 国や道、市町村との備蓄の相互支援について、国や道とは、各市町村の備蓄状況を確認できる備蓄支援システムを通じ、情報共有を図っている他、災害発生時には、国や道で備蓄している物品を、要請しなくても送られてくるような供給体制となっている。また、西胆振 3 市 3 町及び白老町と連携協定を締結しており、災害発生時には、備蓄品の融通等協力体制を構築している。その他に、姉妹都市、友好都市とそれぞれ災害協定を結んでおり、有事の際には必要物資を互いに融通し合うという協定となっている。なお、市内の民間会社や道内の民間会社とも、災害発生時には、食べ物や生活用品について融通していただけるよう協定を進めている。
- ・ 備蓄品の消費期限間近のものについて、登別市ではフードバンクへ寄附をしている。フードバンクから子ども食堂などへ提供されている他、町内会で防災訓練が行われる際にも啓発の一環として提供させていただいている。

質問：西川上町内会

- ・ 青葉小学校へ避難する市民の人数をどの程度想定しているか。当町内会の方で市の防災担当に確認したところ、310 名とご回答をいただいた。青葉地区には 11 町内会があり、災害発生時には多くの市民が青葉小学校に避難することが予想されるかと思う。

回答：総務部

- ・ 310 名という数字は、避難所として長期間運営する場合に、青葉小学校の体育館に収容できる人数を想定し、体育館の中でパーテーションなどで感染症対策を行って安全に避難できる人数をお伝えした。実際に津波が発生した際には、使用できる全ての施設内に避難してもらうことになるだろう。まずは、高台避難場所である青葉小学校に 1 次避難してもらい、その後、別の場所へ 2 次避難していただくことを考えている。

質問：西川上町内会

- ・ 冬場の災害発生時に、避難場所の体育館の施錠は誰が行うのか。誰がどのように行うのかマニュアル化されていない。地域住民が施錠を行わなければいけない場合があるため、町内会と打合せをするべきである。
- ・ 青葉小学校に避難した場合に、避難した市民が暖房をつけられるのか。早いうちに協議すべきである。

回答：総務部

- ・ 夜間の避難について、各地区からご意見・ご要望をいただいているところである。今後、施設管理者及び地域の町内会の皆さまと協議をさせていただきたいと考えている。

意見：さくら団地自治会

- ・ 地区連としても、まずは高台避難場所であるグラウンドに避難することを第一とし訓練を行っている。

5. 地区連合町内会が市と意見交換したい事項：

（2）異常気象に備えた、幌別ダムの放流について

概要説明：緑町団地町内会

- ・ 幌別ダムの中洲の樹木が大きくなってきていると感じている。数年前の大雨の時に放流を行った時に、土手の水位が 1m 程上がり、避難命令もあり何人か避難をしている。市民にはいつ放流を行うのか情報提供がなかった。線状降水帯が出た時に、誰がどのような基準で放流をするのか。
- ・ 天災が起きた場合の責任の所在はどこにあるのか。

回答：総務部

- ・ 幌別ダムは北海道企業局が管理を行っている。幌別ダムの堆積土砂については、計画

堆砂量が1,387千立方メートルに対し、令和5年度の堆砂量は1,011千立方メートルで、今後、令和年に19は堆砂率が100%になる見込であることから、それまでに浚渫工事を実施する計画であるが、浚渫した土砂をどこへ運ぶのか課題であると聞いている。

- ・ 事前放流については、予測降雨量が24時間のうち311mmを上回る場合、かつダムの満水位までの空き容量で対応ができない場合に事前放流を行うこととしていると聞いている。警報級の雨が5～10時間降り続けるときに放流が行われる可能性があるとのことと、空き容量が確保されていれば、事前放流は行わないとのことであったが、市としては十分に余裕を確保して、満水位に達する見込が少しでもある場合は、事前に放流するよう今後も要望を続けたい。
- ・ 事前放流を行う際は、市へ連絡が来るため、その情報は地域の皆さまへ防災無線等連絡網を通じてお知らせすることを考えている。

質問：緑町団地町内会

- ・ 幌別ダムの中洲に樹木や土砂が溜まれば、放水能力が小さくなってしまうことを誰も想定していないかと思う。
- ・ 来年1月に、市連合町内会と胆振総合振興局登別出張所と意見交換会を予定しているため、その際に議題にあげたいと思っている。

5. 地区連合町内会が市と意見交換したい事項：

（3）緑地区にある児童クラブ閉鎖及び市営プレハブ廃止に伴う跡地利用計画について

概要説明：緑町団地町内会

- ・ 児童クラブ閉鎖や市営プレハブの廃止に伴う跡地の利用計画について、市担当部署と町内会等で何度か協議する場を設けているが、現在の進捗をお聞きしたい。

回答：市民生活部

- ・ 青葉地区の公共施設整備については、公共施設整備方針において、青葉児童クラブは老人憩の家桜木の家と共用しているが、青葉児童館に移転することとし、桜木婦人研修の家は老朽化が著しいことから、その機能を桜木の家に移転し、施設は廃止することが記載されている。その後、桜木婦人研修の家の老朽化の著しかった研修室と調理室の床の大規模修繕を行っている。また、コミュニティ施設の再編に伴い、令和4年4月から名称を老人憩の家桜木の家から「コミュニティセンター桜木の家」へ、桜木婦人研修の家から「コミュニティセンター桜木会館」へ変更している。なお、本年10月より青葉児童クラブが青葉小学校内へ移転している。
- ・ 現在、児童クラブの機能がなくなった桜木の家その他、桜木会館や旧職員住宅を含めた3施設の今後の有り方について、町内会と市担当部署とで別途協議を進めているため、引き続き協議を進めて参りたいと考えている。

質問：緑町団地町内会

- ・ 該当の場所は、通学路となっており、バス通りにもなっているため早急に方向性を示していただきたい。

意見：西川上町内会

- ・ 以前より市担当部署と協議している本件について、町内会としての考えをまとめた。後日、地区連会長へ報告させていただき、市担当部署とも協議していきたいと考えている。

意見：さくら団地自治会

- ・ 該当施設は、青葉地区連の3町内会が管理運営を行っている。児童クラブが学校内へ移動したことで子どもたちの負担が軽減し、ありがたく思っている。

5. 地区連合町内会が市と意見交換したい事項：

（４）全市一斉冬季災害避難訓練について

概要説明：緑町団地町内会

- ・ 総合防災訓練を市総合体育館で実施すると聞いており、青葉地区連も何かしらの協力をしていきたいと考えているが、避難訓練実施に係る情報がほとんど来ていない。2月に予定している総合防災訓練の概要の説明をお願いしたい。

回答：総務部

- ・ 本市として初めてとなる冬の総合防災訓練について、令和7年2月1日（土）を開催日として現在準備を進めている。現時点での計画案では、最大クラスの地震・津波が発生したと想定し、青葉地区、富岸地区の方々を中心として避難訓練を実施することとしている。訓練の始めに、青葉小学校や緑陽中学校、若山の家などの高台避難場所へ避難していただき、メイン会場である市総合体育館へ移動していただくことを考えている。避難訓練に参加される方へ避難の時間や距離を記録することをお願いしたい。住んでいる地域により誤差もあるが、市内で最短39分で津波が到達すると予測されているため、39分間でどこまで避難できるか、また安全な高台まで何分かかったのか記録してもらいたい。その後、市がその記録を収束し分析を行い、今後の避難計画に反映させていただきたい。現在、市内の専門学生と道内の大学生に協力をいただき、スマートフォンやタブレットで使えるアプリを開発し、スマートフォンやタブレットの位置情報機能やGPSを活用して、スマホで記録を取ることを試してみたい。避難訓練の後は、徒歩や市バスで市総合体育館へ移動していただき、外部講師の監修のもと、避難所開設運営訓練を実施する予定としている。来月には、青葉地区、富岸地区の皆さまへ担当より概要の説明をする予定としており、意見等をいただきながら準備を進めたいと考えている。

意見：さくら団地自治会

- ・ 当町内会では、すでに役員会にて冬季の総合防災訓練について意見出しを行っていた。厳冬期に8時半から13時までの長時間の訓練は高齢者には過酷であるという意見や要支援者の避難の際に、車を利用することとなるが、青葉小学校へ登る道が狭いため、車を利用して避難しても良いものなのかという意見があった。町内会によって色々な意見があるかと思うので、避難訓練までに内容を詰めていてもらいたい。

回答：総務部

- ・ 厳冬期の避難訓練ということで、厳しい訓練になるかと想定している。市総合体育館の中では、暖を取れるスペースを準備させていただくが、実際にどれだけの市民が訓練に参加していただけるかなど、細かいところまで、町内会と協議させていただきたいと考えている。
- ・ 要支援者の避難について、基本的には徒歩での避難をお願いしているが、車でなければ避難ができない方については、今後個別避難計画の中で、避難方法や避難場所について検討したいと考えている。

意見：緑町団地町内会

- ・ 是非、意見交換の場を設けていただきたい。訓練なので、実際に渋滞しても良いと思う。

意見：西川上町内会

- ・ 町内会の参加人数をある程度決めてもらったほうが効率が良いかと思う。バスの運行等もあるかと思うので。

意見：さくら団地自治会

- ・ 当地区連には、自主防災組織があるため、この訓練について、その組織の中で協議等会議が行われるかと思うので、その会議に市も参加してもらい総合防災訓練を進めると良いかと思う。また、この地域では3地区育成会というものを組織しており、訓練も行っている。個別で協議を行うより、今ある組織を機能させて協議を行うのが良いかと思う。
- ・ 以前、冬場の青葉小学校に避難した際には、雪があり、除雪をしないと車が停められない状況にあった。

意見：西川上町内会

- ・ 東日本大震災の際には、青葉小学校には避難できないと考え、幌別ダムの方へ避難をした。避難した人が、自分の家族が青葉小学校へ避難したが車がいっぱい避難できない、停められない、と言っていたのを耳にした。

意見：さくら団地自治会

- ・ 青葉小学校に避難する際に、工学院の社宅がある裏手からグラウンドへ避難するコースが良いのではないかと思います。現状は、フェンスや樹木があるため、高齢者には厳しいかと思う。

回答：市長

- ・ 冬季の総合防災訓練について、地域の皆さまへ報告が遅くなってしまったこととお詫びする。
- ・ 現在、富岸地区にある線路を横断するチャンスをくれないかＪＲ北海道へお願いする予定である。理想として、２月１日に市の職員と、該当する町内会の人が実際に歩いてもらうことを市防災担当へ指示している。
- ・ １２月に入ったら、市防災担当と町内会で、この訓練について再度協議させていただきたい。その協議には、地区の自主防災組織にも加わっていただくべきだと考えている。１２月の初めに行う協議で頂いた意見や要望に対して、報告を行う場を是非設けさせていただきたい。２月１日の避難訓練では、１次避難の３９分間でどれだけ避難できるのか、またどこまでしか避難できなかったのか、歩いて確かめてもらいたい。
- ・ バスの運行について、ご指摘をいただいたとおり、参加される人数を決めたいと思う。当日、市総合体育館の暖房を時間を決めて消した状態にさせてほしいため、参加される方には理解をいただきたい。

その他

意見：西川上町内会

- ・ 青葉小学校の通学路の歩道の拡幅について、単年で終わる工事なのか。

回答：都市整備部

- ・ 来年、着工し、単年で工事を完了する予定となっている。